



日本の温泉の未来を問う

～ 温泉及び温泉地の現状分析と未来への課題 ～

一般社団法人群馬県温泉協会会長
株式会社中沢ヴィレッジ代表取締役会長 中澤 敬

1. 温泉を巡る現実

- ① 日本の温泉の数（生きている源泉）、湧出量、全て **1割減少**
- ② 自噴泉の割合は**4分の1にまで減少**
- ③ 湧出量の**低下**に伴い、源泉温度も**低下**傾向にある
- ④ 全国の温泉地の年間宿泊者数や宿泊施設も**15%減少**

→ 温泉の枯渇とコロナ後の宿泊者減少傾向が続いている！！

2. 温泉地に住む定住人口の減少に直面

① 群馬県の温泉地の例

- ◆草津・伊香保・みなかみ・四万エリアは、2010年からの10年間で観光入込客数
観光消費額ともに増加しているにもかかわらず、**国勢調査人口の減少率**は、
なんと群馬県の平均3.4%を大きく上回る**15%（エリア全体平均）**

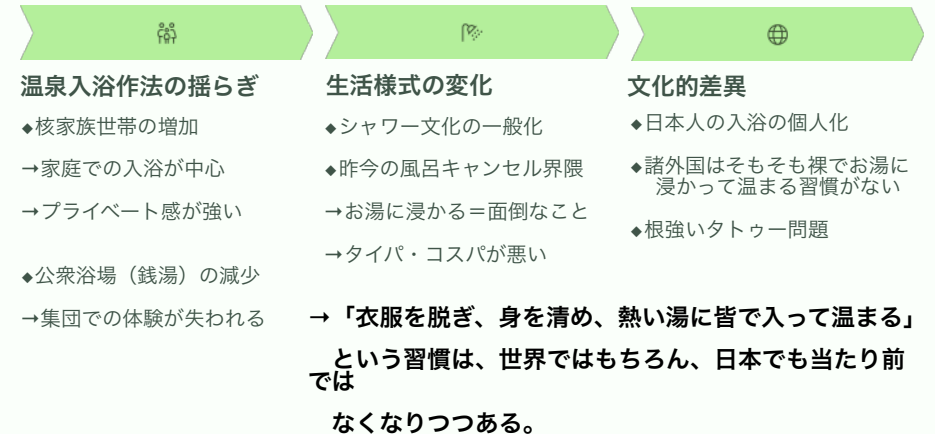


② 「日本の温泉百選」上位温泉地の例

- ◆上位12位の有名温泉地も例外なく、**人口減少率は所在県の減少率より大きく加速**
- ◆特に温泉観光が主要な産業である地域は**世帯当たり人員が2を割り出す地域も**

→ かつてない厳しい人口減少と働き手不足に直面している

3. 温泉に入らない、入れない温泉嫌いの人の増加



4. 国策としての再生可能エネルギーの台頭

① 電力確保に向けての地熱開発の促進

→ 全国各地で大深度掘削による温泉地の湯量減少・枯渇が発生

② 我々は1400年以上前から、人々の癒しとして「温泉」で地熱を利用

→ 地熱開発との共存あるいは棲み分けはできるのか？

5. 温泉と法律

行政の所管が複雑

- ◆地質・泉質の関係は「環境庁」
- ◆健康・温泉利用は「厚生省及び環境省」

温泉法の課題

- ◆温泉法の中に、現在開発中の地熱開発との関係性についてははっきりした記述がない。

あるはずの効能表示の制限

- ◆日本の薬事法では、温泉の効能を表示することは許可されていない なぜ？

医療との連携の必要性

- ◆温泉の成分、効能（適応症）のエビデンス確立
- ◆医療費の削減に寄与する予防医学としての温泉利用の促進

6. 地方創生に対する起爆剤は？

これからの定住者と関係人口の頼みの綱は・・・



インバウンド？ 外国人移住者？

→両者に対し、全国の温泉地では期待と同時に課題も・・・

伝統の継承

外国人スタッフに対しても、日本語だけでなく温泉文化を正しく伝えるための取り組みが必要である。正しい入浴作法と温泉の価値を教える機会を増やすべきである。

国際的な発信

日本の温泉文化を世界に発信するためには多言語対応の充実や外国人を惹きつけるアピール方法も必要。文化的背景の違いを尊重しながら、他の国にはない日本の温泉の独自の魅力を伝える工夫が求められる。

7. 再認識すべき日本の温泉

地理的特性・気候条件

- ◆温帯モンスーン気候に横たわる火山大国
- ◆日本海が存在による世界有数の豪雪地帯
- ◆国土を覆う豊かな森林土壌

→立地と生態系の奇跡が生んだ温泉

長い歴史の中で 人々は共に、種類豊富な熱い温泉に浸かって心身を癒し、日々の活力を回復させる"社会的・文化的習慣を生み出した。

北から南まで
約3000弱の温泉地は・・・

- ①世界に類を見ない強アルカリ性から強酸性まで豊富な泉質の種類を誇る
- ②世界一豊富な温泉の数や源泉の種類がある
- ③世界的にも珍しい38度以上の温かい温泉が半数以上
- ④皆で熱い湯に浸かって“温まる”日本独自の温泉文化・入浴習慣を守っていける場所



8. ユネスコ無形文化遺産登録の意義

この登録にどんな活路を見出そうとしているのか？

日本の温泉の「存続と継承の危機」からの「展開と拡張の可能性」

国内外で、日本の温泉文化が世界的に希少価値のあるものだとして再認識させることで
楽しみや癒しだけではなく温泉の存在意義を広く知らしめるチャンスができる

1

医療的価値の確立

超高齢化社会の医療崩壊の前に、未病を防ぐ予防医学的役割としての「温泉」がどれだけ人々の健康に寄与するかのエビデンスが作りやすくなる

2

法的保護の強化

無秩序な開発に負けない、環境的にも社会的にも経済的にも持続可能な温泉の保護に繋がる法整備が強化される可能性

3

文化的価値の再認識

近年廃れつつある、日本の伝統的な入浴習慣・温泉文化を、「和食」のようにクールなものとして世界中に認めてもらうことで、日本の若者に、この文化が世界に誇るとても特殊で価値のあるものと再認識してほしい（逆輸入的発想）

9. まとめ

文化的・社会的習慣となった入浴・温泉の作法を何百年も当たり前に継承してきた私達一般国民が、温泉地内外の湯の匠達と共に動き出してこそ、日本の温泉文化の世界無形文化遺産登録への扉が開くはずです。

日本が誇る温泉文化が、全人類に共有され、唯一無二の文化として認められ大きく花開く世界を共に作っていきましょう。

